

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

東京都町田市南成瀬5-1-12 SKビル1階
学校法人明泉学園 成瀬フェリシア保育園

1. テーマ

光の探究

2. テーマ設定理由

昨年度は自然光や反射による光遊びを通し、「光と影」の不思議さや美しさや面白さに興味を持った子ども達。
「光と影」に関して興味の幅を広げられるように、懐中電灯を使った遊びを設定。

3. 環境の設定・準備

- ・懐中電灯
- ・カラーセロハン
- ・セロテープ
- ・明：懐中電灯による光を取り入れる
- ・暗：光を遮る(ロールスクリーン)

4. 探究活動の実践

8月

懐中電灯にセロファンをつけて光を取り入れると、「あれ？」「いろがついてる！」と興味を示す姿が見られた。「まって！」「こっちいったよ」と、床や壁に映る色のついた光を目で追ったり、手を伸ばして触れようとしたりする姿があった。光を動かすと「にげた！」「またきた！」と楽しそうに追いかけ、友だちと一緒に光を追う姿も見られた。色の変化や光の動きに気付きながら、床や壁に映してみるなど試す様子もあった。最後には、色のついた光を追いかけることや、光に触れてみることを楽しみながら笑顔が多く見られた。



2月

前回の遊びを発展させ、懐中電灯の光を天井や広い空間に向けてみると、「うえにいった!」「おっきいね!」と驚く声が聞かれた。天井に映る光を見上げながら手を伸ばしたり、ジャンプしたりと、全身を使って光を追う姿が見られた。暗くした室内の中で、光の広がりや光の色の違いに興味を持ち、友だちと光を追ったりする中で、光の変化や空間の広がりを感じながら、遊びがさらに深まっていった。



5. 振り返り・気づき

懐中電灯を用いた光の遊びを通して、子どもたちは光そのものだけでなく、色の違いや動き、広がりによって自然に興味を持って関わる姿が見られた。特に、セロファンによって生まれる色の変化や、天井や壁に映る光の大きさ・位置の違いに気づき、自ら試したり確かめたりする姿が印象的であった。また、光を「追う」遊びから「動かす」「重ねる」遊びへと発展し、子ども同士で関わりながら楽しむ様子も見られたことから、環境の設定や素材の工夫によって、遊びが広がり深まることを改めて感じた。暗さや空間の使い方を工夫することで、普段とは異なる視点での気づきや発見につながり、子どもたちの探究心を引き出すことができたと考える。今後も、子ども自身が気づき、試し、楽しめるような環境構成を大切にしていきたい。

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

東京都町田市南成瀬5-1-12 SKビル1階
学校法人明泉学園 成瀬フェリシア保育園

1. テーマ

色、光の探究

2. テーマ設定理由

染め紙遊びをしたことから、子ども達が混色に興味を持っていた。透明積み木やマグネットブロックをライトテーブルに乗せて、キラキラと透けたり色が混ざるのを楽しんでいた。子ども達から「まぜたらなにいろになるかな？」と疑問が出てきたため、環境を設定しテーマとした。

3. 環境の設定・準備

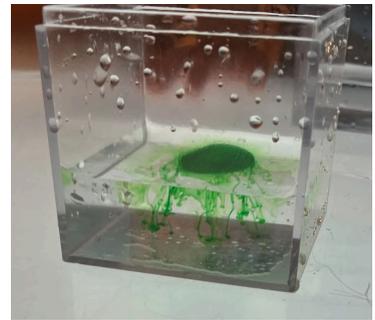
- ・色水(3色)、 スポイト、 プラスチックケース
- ・ライトテーブル、 水、 食紅

4. 探究活動の実践

赤、黄、青の色水を用意し、
スポイトを使って色水遊びをした。プラスチックケースに色水を移していると色が混ざり「オレンジ!」「みどり、なった!」と容器を持ち上げて光にかざし、色の变化や混ざり具合を確かめていた。ピンクはどうしたらできるかな?と友達と話し合いながら様々な色を混ぜて試していた。作った色水をジュースに見立てて「これメロンのにおいするかな?」とにおいを嗅ぐ子もいた。



光るテーブルに乗せてみたら色は変わるのかという興味から、ライトテーブルを用意してみた。作った色水をテーブルの上に置くと「いろ、すこしなくなった！」と光で色が薄くなることに気がつき、その後色水を足して、もう一度置いてみると「こくなったよ！」と教えてくれた。



プラスチックケースの中に水を入れて、子ども達の好きな色の食紅を1滴垂らしてみた。その前にどのように色が混ざるのか聞いてみると「すぐかわる!」「まぜるの」「ゆっくりじゃない?」と答えていた。どのように色が変わるのかワクワクした表情で見ている。食紅が糸のように細い線で沈んでいくのを見て「ブロッコリーみたい!」と気づいた。他の子も葉物野菜の名前を次々にあげて楽しんでいた。様々な色を垂らす中で青だけ色があまり浮かばず下にすぐ沈殿してしまった。「したにいっちゃった」と不思議そうにしていた。



5. 振り返り・気づき

色水遊びでは、赤・黄・青の三原色をもとに、混色による変化を楽しむ姿が見られ、子ども達の「混ぜたら何色になるのか」という興味が広がった。作った色水を光にかざしたり、ジュースに見立てておいを想像したりするなど、友達とのやりとりもしながら感覚やイメージを働かせた遊びへと広がっていった。食紅が沈殿していく様子が野菜に見えたり、色によって混ざり方が異なることに気づき友達に伝えていたことから、知っているもののイメージと結び付けて表現したり、発見を他の人と共有する力が育っていると感じた。

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

東京都町田市南成瀬5-1-12 SKビル1階
学校法人明泉学園 成瀬フェリシア保育園

1. テーマ

自然の探究

2. テーマ設定理由

食育の一環で夏野菜を植え、収穫を目指していた。また花にも興味を持っていたため、ヒヤシンスの水耕栽培にも挑戦してみた。育てる中で観察を通して野菜による違いを発見できるように活動をしていった。

3. 環境の設定・準備

- ・夏野菜の苗(ミニトマト、ナス、きゅうり、ピーマン、オクラ)
- 虫眼鏡、プランター、土、じょうろ
- ・ヒヤシンスの水耕栽培

4. 探究活動の実践

5月

夏野菜の苗を観察した。虫眼鏡を持って葉を見比べたり触ってみて「こっちおおきいね」「なんかふわふわ？」と発見を呟っていた。

外にでて保育者が手本を見せながらプランターに苗を植えた。「優しく布団をかけてね」と土を優しくかけるように伝えると、子ども達も真似をして土をかけてポンポンと優しく整えていた。その後野菜が大きく育つように「おおきくなってね」と祈りながら水やりをした。



6月

水やりをしながら「はっぱ、おっきいね」「おはなきいろだ！」「なんかちいさいのできてるよ」と発見を友達や保育者に嬉しそうに伝えて共有していた。

土が乾いていると「のどかわいてるね」とたっぷり水をあげていた。



7月

実が大きくなり収穫をした。ミニトマトの中でも赤や黄色の違いや曲がっているきゅうりをみて「なんかまがってる！」と面白い形に笑いあったりと収穫を楽しんでいた。収穫を終えると、友達と「きいろだね」「こっちのがおっきい！」と見比べてやりとりをしていた。



11月

ヒヤシンスの水耕栽培を始めた。植える前に観察を行うと「たまねぎみたい！」と身近な野菜に例えている子がいた。そこから「たまねぎのにおい、するかな？」とにおいを確かめて「しなかったよ」と保育者に結果を伝えていた。



1月

ヒヤシンスの芽が成長してきた。子ども達に何色が咲くか予想を聞いてみると「あおがいい！」「ピンクだよ！」と好きな色を答えていた。そこで表を作り、園全体で何色の花が咲くか保護者も一緒に参加してもらい予想した。「なにいろになるかな？」と期待が高まっていた。



2月

ヒヤシンスが咲き、何色の花が咲いたか結果発表をした。予想が当たった子は「せいかいだった！」と喜んでいて、予想と違った子は「ちがったね」と悲しそうにしていたが、綺麗な花が咲いたことを「かわいいおはなね」と嬉しそうに笑っていた。1人の子が匂いをかいで「いいにおいする！」とみんなに伝えると、顔を寄せ合って匂いを確かめて楽しそうにしていた。観察の中で根っこに触ってみると、想像と違ったようで「かたい！」と感触に驚いていた。「かみのけみたい」と表現して「みつあみできるかも」と髪の毛のように三つ編みができるか挑戦してみる子もいた。



5. 振り返り・気づき

子どもたちは夏野菜の苗やヒヤシンスの観察・栽培を通して、五感を使いながら主体的に関わる姿が多く見られた。虫眼鏡で葉の大きさや感触の違いに気づいたり、「ふわふわしている」など自分なりの言葉で表現する様子が見られた。水やりや日々の観察の中で「のどがかわいているね」と植物に思いやりを持って関わる姿勢が育っていた。収穫時には色や形の違いに気づき、友達と見比べながら楽しむ姿が見られ、達成感や喜びを十分に味わいながら共感や伝え合う表現の育ちも感じられた。ヒヤシンスの活動では、身近なものに例えたり、においを確かめたりと観察がより広がりを見せた。さらに、花の色を予想し合う活動では、保護者も巻き込みながら期待感を高めることができた。結果発表では、当たり外れに関わらず花の美しさや香りを楽しむ姿が見られ、感性の豊かさが感じられた。子どもたちは観察の中で、自分の感じたことや気づきを言葉にし、他者と共有することで興味関心を深めていくことが分かった。また、「優しくする」「大きくなってほしい」といった関わりから、生命への思いやりや愛着が自然と育まれていることに気づいた。今後も子どもたちの気づきやつぶやきを大切に受け止めながら、主体的に関われる環境や言葉かけを意識し、さらなる探究や表現につなげていきたい。

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

東京都町田市南成瀬5-1-12 SKビル1階
学校法人明泉学園 成瀬フェリシア保育園

1. テーマ

自然の探究

2. テーマ設定理由

昨年度の「カブトムシ」が卵を産み、2代目カブトムシが育ち生命のサイクルが回りだした。自然探究には絶好のテーマであることから、そのカブトムシを通して自然への関心や探求心を育むことを目的とした。大人である保護者・保育士も興味津々！園をあげて取り組みを見守っていただける内容である。

3. 環境の設定・準備

- ・飼育ケース
- ・エサ
- ・土
- ・虫メガネ
- ・防虫シート
- ・絵本
- ・図鑑
- ・PC画像印刷物
- ・スプレーボトル

4. 探究活動の実践

7月

カブトムシのつがいが産卵し、その後無事に孵化し幼虫となり、今年度大きく立派な成虫へと成長した。観察の様子として、1歳児は動く存在としてカブトムシを捉え、言葉は少ないながらもじっと見つめ、「なんだろう」という不思議さや興味を抱いている様子が見られた。動き出すと驚いて表情がこわばるなど、恐れと好奇心が入り混じった反応が印象的であった。一方で2歳児は、昨年度の経験や記憶から、より主体的に関わろうとする姿が見られた。自ら手を伸ばして捕まえようとしたり、顔を近づけて観察したりするなど、喜びや期待感をもって関わる様子が多く見られた。「ぜりーたべてるね」「おいしいかな」と言いながらエサやりも任せて！と得意げな姿に、継続的な飼育体験が子どもたちの関心を深めているのだと思えた。



9月・3月

新しい命が誕生し、小さな幼虫を発見することができた。幼虫を虫メガネで観察する中で、「うごいてるよ!」「だんごむしみたい」といった気づきがあり、身近な経験と結びつけながら理解しようとする姿が見られた。なんと、観察に夢中になるあまり、1匹つぶれてしまうハプニングが。「あ、つぶれちゃった...」「いたいよね...」その気持ちになりかわって感情を表した。その後は離れた場所から心配しながら観察を続けていた。たくさんの幼虫の群れに「いっぱい・いっぱい」と興奮する子、引きぎみに恐る恐る見つめる子、とそれぞれの感じ方や関わり方の違いも見られ、様々な感性が見受けられた。

観察後、保育者が土をかけると「つちいっぱい入れるの?」と心配そうな声...成虫を飼育していた時とは違う土の量を感じ取る深い観察力を言葉にしていた。

3月、幼虫の様子を見てみた。以前とは違って大きくむっちりとよく太り元気に動いていた。12匹の幼虫を皆で数え蛹になるのを心待ちにした。



5. 振り返り・気づき

このテーマを通して、子どもたちは「気づく・比べる・感じる・考える」といった探究を自然に経験し、命の大切さや自然との関わり方について主体的に学ぶ姿が見られた。また、観察に夢中になる中で幼虫がつぶれてしまう出来事に対して、「いたいよね...」と対象の気持ちに寄り添う発言があり、命への共感や思いやりの芽生えが感じられた。その後は距離を保ちながら心配そうに観察を続けるなど、経験を通して関わり方を調整する学びへとつながっていた。2年に渡る継続的な観察により、時間の経過による変化や生命の成長への関心が深まっている。子どもだけでなく保護者や保育士も共に興味・関心を持ち、園全体で成長を見守ることで、学びや気づきを共有し合える環境づくりにつなげていきたい。

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

東京都町田市南成瀬5-1-12 SKビル1階
学校法人明泉学園 成瀬フェリシア保育園

1. テーマ

音の探究

2. テーマ設定理由

机をたたく時の音が気になり大合唱になる子ども達と、「おおきなたいこ、ちいさなたいこ」を歌いました。大きく、小さくたたいたりしながら音の大きさを保育者の真似をして遊びました。外では公園のベンチを手でたたいてみたり、枝を見つけて枝でたたいてみたり、落ち葉を踏んだときに出ている音に気づいて「シャカシャカ」と言いながら落ち葉踏みをして葉っぱの音に興味を持ち始め、音を楽しんでいる様子があったので音の出会いを楽しみたいと思いテーマとした。

3. 環境の設定・準備

- ・自然の音（屋内外）
- ・音遊びの楽器（タンバリン、鈴、カスタネット）
- ・色々な音（大小様々な形状の箱）
- ・棒
- ・本物の音との出会い

4. 探究活動の実践

11 月

音遊び・1

朝おやつが終わった時に机をたたいて音が出ることを楽しんでいました。

保育者が「おおきなたいこ、ドーンドーン、ちいさなたいこ、とんとんとん」と歌いだし一緒に音を大きくしたり、小さくして歌いながら音の大きさを楽しんだ。公園では、木のベンチを手や木の枝を使い自然の中で音を体感した。



11 月

音遊び・2

生活の中で音に興味を持ち、遊びに取り入れている子ども達に音の出るタンバリン、鈴、カスタネットを見せてみた。すると様々な音に興味を持ち始め、たたいたり振ってみたり自分なりの音を鳴らすことを楽しんだ。



12 月

音遊び・3

クリスマス会の時に保育者が鉄琴や木琴、トライアングル、ウッドロック、太鼓を演奏している姿を見て、「やってみたい」と言いながら目を輝かせて見ていた。実際に鉄琴や木琴のマレットを手に持ち音を出してみると、「おー」と大きな声とともに笑顔になった。たたいて出た音に反応する姿があった。



音遊び・4

公園でどんぐり拾いをして遊んだ。落ち葉を踏んで「しゃかしゃか」と落ち葉を踏むことで鳴る音を出してみる姿もあった。その後拾ったどんぐりを使いマラカス作りを子ども達とした。作っている時から「どんぐりころころ～」と歌いながら作っていた。マラカスが出来上がり、みんなで大合唱となった。



5. 振り返り・気づき

室内で机をたたいたり、壁をノックしたりする音に気づき、散歩に出かけた時に身近にあるものを使って音をだしてみても楽しむなど、身近な音に触れながら遊びに取り入れて楽しんでいた。クリスマス会で本物の楽器に触れたことで楽器というものに興味を持ち、触ってみたい、鳴らしてみたいと意欲的に楽器を触り、音が出ることで音の大きい小さいにも少しずつ気がついていった。叩く力も変えながら「おおきく」「ちいさく」と言って叩いてみたりする姿もあった。遊びの中で身近な物で音を出すことを遊びの中に取り入れて遊ぶなど子ども達と音探しをしていきたい。



